

## はじめに

「予防歯科医療」という言葉を、昨今頻繁に耳にするのではないだろうか。少子化・超高齢化が加速的に進行するわが国において、歯科医療に求められる本質は、ここ数年で大きく変化してきたように感じる。さらに、世界的なパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスは、DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、われわれの生活をも大きく変えた。

国の政策の一つでもある「骨太の方針」においても、疾病に罹ってしまった後の対策ではなく、重症化予防・健康づくりの方向へと大きく舵を切ってきた。さらに2023年度の改訂においては、「リハビリテーションや栄養管理・口腔管理の連携・推進」と謳われるように、歯科専門職による口腔健康管理の充実といった、従来の歯科治療の枠を大きく越えた医療体制が求められている。

だからこそ、従来の目の前の疾病に対する「対症療法」から、疾病に罹らないよう健康であり続けるための「原因療法」に目を向けた、「予防歯科医療」に注目が集まるようになったのだろう。

しかし、「予防歯科医療」といってもその範囲はたいへん広く、どのようにして歯科医院レベルに落とし込んでいけばよいのか、戸惑われている先生方も多いのではないだろうか。

本書はそんな先生方に何か力になることはできないかと、筆者を含めた同志をもつ歯科医師で書き上げた一冊である。予防歯科医療についての全体像を把握し、実践的なアプローチを提供することを目的としている。

歯科医院の乱立や患者数の減少、診療報酬の改定、慢性的な人手不足など、現代の歯科医療は多くの課題に直面している。そのなかで、本書は医療の本質と可能性を探求し、筆者らが行った実際の取り組みを供覧する書籍となっている。読者の先生方にとって、予防歯科医療の重要性を理解し、導入するための貴重な一冊となれば幸いである。

2023年11月

なみき通り歯科・矯正歯科  
安藤壮吾